

巻頭グラビア	アルマ望遠鏡10周年特集号記事より		
アルマ望遠鏡特集	巻頭言		
	アルマ望遠鏡, 本格運用開始から10周年	廿日出文洋	70
	惑星系形成の最初期を観る	大橋永芳	72
	大質量星形成初期段階の統計的研究	森井嘉穂	82
	アルマ望遠鏡による5秒角スニヤエフ-ゼルドビッチ効果の銀河団観測		
	上田周太郎・北山哲・岡部信広		92
欧文研究報告論文賞	すばる/HSCで探る遠方銀河形成とJWST等による研究の進展		
		播金優一	102
天球儀	3Dコーナリフレクタを用いたバルサー観測報告		
	矢口徳之・白居隆志・横川英彰・吉田英人・寺澤敏夫・浅山信一郎		109
シリーズ: 天文学者たちの昭和	佐藤文隆氏ロングインタビュー		
	第11回: 冷戦と物理	高橋慶太郎	114
書評	ロヴェッリ 一般相対性理論入門	島袋隼士	130
寄贈図書リスト			131
月報だより			131

【表紙画像説明】

南米チリ共和国北部, アンデス山脈の標高5,000メートルに建設されたアルマ望遠鏡. 背景には天の川と月が輝く. 右側には, 日本が開発した16台のアンテナ群「アタカマコンパクトアレイ (愛称: モリタアレイ)」の一部が写る. 2023年3月, アルマ望遠鏡は本格運用を開始してから10年を迎えた. これまでのミリ波・サブミリ波望遠鏡を凌駕する高い分解能と感度で, 惑星系の形成過程や, 銀河の形成・進化, 宇宙における物質進化など多くの分野で研究成果を挙げてきた. 次の10年を見据え, 性能をさらに向上させるため「広帯域感度アップグレード」(Wideband Sensitivity Upgrade)が進行中である.

Credit:ESO/S. Guisard (www.eso.org/~sguisard)